

JICA 中国事務所ニュース 4月号

目次

【最近のトピックス】

- ◎ 中日友好病院に協力隊が来ました1
- ◎ 青海省果洛チベット自治州家畜越冬保護資材・機材支援計画2
- ◎ 雲南省で気象観測の現場を視察2

【ニュース】

- 民事訴訟法セミナーを開催3
- ポータルサイト「エクспロア上海」にJICA ボランティア・ページができました4
- リハビリ隊員が理学療法科学学会で発表4
- 法律分野の帰国研修員との交流イベント開催4

【人の動き・主要行事】5

【寄稿コーナー】5

【お知らせ】7

最近のトピックス

◎ 中日友好病院に協力隊が来ました！



阿部青年海外協力隊員

中日友好病院は1984年の開院以来、中国を代表する病院として発展し続けてきました。また、中国で初めての帰国研修員同窓会（JICA医療分野帰国研修員同窓会）を設立し、会員約400名を束ねる事務局を務め

る等、日中友好のシンボルとしても重要な役割を担い続けてきています。

そして今回のオリンピック・パラリンピックにおいて、本病院は選手・コーチ・マスコミ関係者の専門入院病院として指定されました。2008年3月、その中日友好病院に青年海外協力隊短期隊員が着任しました。

12月24日までの短期隊員ということで、阿部亮子さん（平成17年度1次隊で看護師として貴州省人民病院で活動、2007年7月帰国）が3月27日北京に赴任されました。（ちなみに、中日友好病院への隊員派遣は歴史があり、阿部さんは16人目の隊員となります）

阿部さんの配属病棟は国際医療部で、患者に対する接遇指導が主な要請内容となっています。中国人の患者はもちろんのこと、国際医療部ですので外国人患者への接遇指導の協力も強く求められています。折しも今年はオリンピックの年。阿部さんの活躍が期待されています。

阿部さん赴任後、面白い事実が発覚しました。中日友好病院外事処で阿部さんの手続き等を担当して下さっている楊宏敏さんはなんと平成9年度2次隊山本仁美隊員(長春外国語学校)の教え子だったのです。楊さんは外事処で隊員関係の仕事をして下さっていると共に、JICAの医療同窓会のまとめ役もして下さっています。

中国への協力の中でも最も古いものの一つである中日友好病院、さすが歴史があるだけに、JICAとの縁も深いようです。

(ボランティア調整員 今間智子)

◎ 「青海省果洛チベット自治州家畜越冬保護資材・機材支援計画」
F/U協力の資機材引渡式が行われる!



引渡式に列席した古賀所長、商務部、
青海省の指導者

3月26日午後、青海省西寧市で、「青海省果洛チベット自治州家畜越冬保護資材・機材支援計画」F/U協力の資機材引渡式が行われ、JICAから古賀所長が列席しました。本プロジェクトは2000年3月に無償資金協力のE/Nが取り交わされ、2001年に調達された資機材のフォローアップ要請を受けて実現したも

のであり、無償資金協力により、貧困牧民の生活を雪害から保護するため、また雪害発生時の緊急支援体制を強化するための機材整備を行うことを目的とするものです。

当日の引渡式には商務部、青海省商務庁、農牧庁、果洛州政府、農牧局及び納入業者等が参加し、青海省テレビ局からの取材もありました。(その後29日に引渡式の様子が放送された由)

商務部、青海省商務庁からは日本の協力に対し感謝の意が表わされ、果洛州副州長から本案件は、州内の家畜の越冬及び雪災害に大きな役割を果たしており、中国側は提供された機材を有効な維持管理により大事に使っていること、今回のF/U協力により、老朽化された機材の修理及び更新により、今後プロジェクトの効果がもっと長く維持できるという感謝の意が表明されました。

JICAからは、本協力によって提供された機材の有効利用と維持管理に対する評価と共に、今回提供された機材についても適切な管理により、果洛州の農牧業の自立的な発展に大きな役割を果たしてもらいたいとの希望が表明されました。特に今年は果洛州も大きな雪による被害を受けていることから、本件が同州の復興に役立つことが期待されます。

果洛チベット州には2万戸の牧民がいますが、本件により、1,000戸の越冬問題が解決され、またこれを機に中国政府も、1,000戸を対象とする遊牧民支援を行いました。中国側からは本件の効果を長く発揮していくために、協力を続けてほしいという要望も出され、本件を踏まえ、牧畜業振興及び牧畜民生活と栄養改善の技術面での更なる協力の可能性があると思われます。(業務班 林哲浩)

◎ 雲南省で気象観測の現場を視察

3月9日からの三日間、当事務所古賀所長と共に「日中気象災害協力研究センタープロジェクト」の雲南省サイトを視察しました。このプロジェクトはチベット高原及びその東部周辺地域において、既存の機材や供与機材を

活用して気象観測データの量的・質的向上を目指し、それら観測データを取り込んだ数値予報モデルの開発を行い、現業気象予測システムの強化を行うものを目的として、2005年12月にスタートしました。これまでJICAは観測のために必要なAWS(自動気象観測装置)を含む多くの気象観測機材を投入してきました。昨年12月に、全ての機材調達が終わり、今年3月から本プロジェクトの集中観測が始まったため、機材の状況を確認するとともに現場技術者との意見交換のために視察したものです。

このプロジェクトの主な観測地域はチベット自治区、雲南省、四川省など中国の南西部ですが、今回は、機材を多く投入した雲南省麗江市と大理市白族自治州を視察しました。



大理洱海気象観測ステーションにて
石川専門家(左)より説明を受ける古賀所長(右)

まず訪れた麗江自治州気象観測ステーションにはJICAが供与したGPS降水量計測装置及びGPSラジオゾンデが据付けられており、これまで特に大きな問題もなく観測データが蓄積されています。GPS降水量計測装置は1時間おきに水蒸気観測データを雲南省気象局に転送しており、観測精度は99%に

も達しているとのことです。

次に自動車で3時間かけて麗江市から大理へ下り、洱海気象観測ステーションを視察しました。ここは中国全土で五本の指に入る大きさのステーションです。JICAが本プロジェクト中、最も多くの機材を供与している場所でもあり、GPS降水量計測装置、PBL(大気境界層観測装置)、ウィンドウプロファイラー、GPSラジオゾンデが据付けられています。中国側も協力を熱心であり、観測ステーションを建設するため、所用土地の確保等については、大理市政府及び大理気象局の多大な努力により、観測ステーション面積はプロジェクトが開始前の6ムー(約0.4ヘクタール)から今の36ムー(約2.4ヘクタール)に拡大されました。供与された機材は観測データの収集のため活躍しています。

雲南省気象研究所の孫績華所長と大理州気象局、中国気象局ネットワーク司の代表、中国気象科学研究院の代表から、プロジェクトにより観測能力がレベルアップしていることが紹介され、JICAに対する謝意が述べられました。これに対し古賀所長は、東京大学、京都大学等からトップレベルの研究者が参加するこのプロジェクトを通じ、アジア全体を視野に日中が主導的に共同研究を展開すればプロジェクトの意義がますます大きくなるとの期待を述べました。

(業務班 邢軍)

ニュース

■ 民事訴訟法セミナーを開催

3月27日と28日の両日、民事訴訟法セミナーが全人代会議センターで開催されました。これは「民事訴訟法・仲裁法プロジェクト」の

活動の一環です。日本から派遣された一橋大学大学院の上原敏夫教授を始めとする4名の講師が、全人代常務委員会や最高人民法院等からの出席者約30名に対し、証拠制

度を始めとする日本の民事訴訟制度について詳細な説明を行ないました。セミナーは事前に提出された質問に対し回答を行なう形式で進められ、よく準備された講師陣の説明と日中の専門家同士による質疑応答により充実した内容になりました。また全人代の適切な進行や、法律分野に精通した通訳のお陰で、セミナーは成功裏に終えることができました。今後長期専門家が赴任する本プロジェクトは、民訴法・仲裁法の改正を支援するという目標に向け、本格的に始動することになります。今回のセミナーの議論も、法改正に反映されることを期待したいです。

(業務班 大久保晶光)

■ ポータルサイト「エキスポア上海」に JICA ボランティア・ページができました！

「中国各地で活躍する JICA ボランティアの存在を、日本人にも中国人にももっと知ってもらいたい」、そんな想いから今まで JICA ボランティアの投稿原稿を「人民網」というWEBサイトで紹介してきました。

(人民網日本語版)

<http://j.peopledaily.com.cn/xielidui/xielidui.htm>

(人民網中国語版)

<http://japan.people.com.cn/xielidui/xielidui.htm>

これに加えて、2008年3月31日からポータルサイト「エキスポア上海」において、JICA ボランティアの投稿記事の掲載がスタートしました。ぜひご覧ください。

(エキスポア上海トップ)

<http://www.shanghai.or.jp/>

(JICA ボランティア・ページ)

<http://www2.explore.ne.jp/articles/jocv/index.php>

(ボランティア調整員 臣川元寛)

■ リハビリ隊員が理学療法科学学会で発表

3月29日、北京の中国リハビリテーション研究センターで開催された第5回理学療法科学学会(会長:丸山仁司 国際医療福祉大学教授)国際学術大会において、リハビリテ

ーション分野で現在派遣中の青年海外協力隊員が発表を行いました。



ポスター発表を行う浅野隊員

現在、リハビリ分野の隊員は理学療法士6名、作業療法士1名の計7名が中国で活動していますが、今回の学会では5名の隊員が任地での活動、アンケート結果をまとめ、研究発表「中国における青年海外協力隊リハビリテーション隊員の視線」、ポスター発表「中国地方都市におけるリハビリテーション人材の現状」の2つの発表を行いました。どちらの発表に対しても活発に質疑が行われ、日中の研究者がその内容に高い関心を示していることが伺えました。パラリンピックを控え、中国のリハビリの現状を日中双方の関係者に伝える良い機会となったのではないかと思います。本年4月、リハビリ研究センターを拠点として、地方のリハビリ人材を目的とした新たな技術協力プロジェクトが開始されたこともあり、今後同センターをハブとしたより活発な隊員活動も期待されます。

(業務班 坂元芳匡)

■ 法律分野の帰国研修員との交流イベント開催

3月21日に法整備分野の帰国研修員を招いての二つの行事が JICA 事務所で開催されました。

まず午前中は、初めての「法律分野帰国研修員交流会」が開かれました。JICA が重視している課題の一つである法律分野について、日本の法制度を学んだ研修員から、今後の更なる協力の可能性に関し直接意見を

聞き、案件形成に活かすことが狙いでした。司法部、財政部、最高人民法院を始めとする政府機関や研究機関から11名の出席者を得ました。その内の3名は上海等地方からの出席者で、帰国研修員のこの分野への協力の熱意を伺わせました。

議論の中では、財政部や長期研修員OBから、今後の協力への書面での提案も行なわれる等、ニーズの高さがわかりました。また最高人民法院には裁判官の研修機関があり、カナダの協力がすでに行なわれていることが紹介され、日本側出席者の関心を集めました。

また午後には、「帰国長期研修員報告会」が開催され、九州大学法学部で国際経済ビジネス法を三年間ほど勉強し、この程帰国した何霞(Ms. He Xia)さんが、その成果を発表しました。

何霞さんは「中国における雇用機会均等法制の展望:差別禁止とアファーマティブアクション、両アプローチの調和を求めて」という

論文により博士号を取得し、帰国後は西南財経大学法学院で教鞭をとっています。報告会では論文の内容や留学中の思い出について紹介してくれました。



日本の法制度について議論する帰国研修員

何霞さんを始め、法整備分野の帰国研修員の多くは専門分野で活躍しています。JICAにとって貴重なアドバイザーである彼らの活躍を今後もサポートしていきたいと考えています。

(業務班 大久保晶光・相互理解班 李瑾)

人の動き ・ 主要行事

(1) 主な調査団(派遣中・派遣予定)(4月)

持続的農業技術研究開発計画事前評価調査(4/15-4/26)

(2) 4月の主要行事

林業分野の日中NGO会議開催(4月25日)

寄稿 コーナー

私の研修生活

～桜の季節より～

2008年4月1日、成田空港に到着し、入国手続きを終えゲートを出ると、時刻は既に夜の8時をまわっていた。JICAの担当者の

ンバスに乗せてくれた。ともし始めた街の灯や絶え間なく流れる車の列、そして見慣れた漢字の看板をバスから眺めた。私の日本滞在はこうして始まった。東京はさほど見知ら

ぬ土地という感じがしなかった。スムーズな交通、きれいな通り、オフィスビルの中にはこんな時間になってもまだ仕事をしている人々がいた。初めて見た夜の東京の風景は、私に深い印象を残した。



JICA 東京国際センターの近くの桜

バスを降りると、JICAのスタッフが既にタクシーを呼んで私を待っていた。タクシーの運転手は老人であったが、進んで私の荷物を車に運び入れてくれた。感激しつつも、申し訳ない気持ちになった。しかしこれが日本人の勤勉精神というものなのだろう。

北京から東京に着き、最も目に付いたのは道の広さの違いだった。北京の広々とした道路に慣れた私は、東京の整っていながらも狭い道を見てどうしても心の中で比較をしまう。しかし、ふと目に入った速度計は、なんと時速90キロを示していた。私は驚くと共に感心した。北京では渋滞が当たり前になっていたが、東京の交通はスムーズだ。私にはわかに気持ちが明るくなった。

タクシーは東京の高架道路を走っている。すぐに満開の桜を見ることができず残念に思っていると、突然明かりに照らされた夜桜が目飛び込んできた。下からライトアップされ

た美しい桜の花は、手を伸ばせば届きそうな感じがした。それはまるで芸術映画を見ているようだった。高速で走る車中からの夜桜鑑賞など、東京の人でもそう経験がないに違いない。そう思うととても得意な気持ちになった。

次の日は朝から快晴だった。良い気分を外に出て見ると、なんとTICの入り口が面している一般道も桜並木で縁取られていた。世界各国から集まった研修生達と共に、日光に照り映える桜をしばし眺めた。辺りにそこはかとなく甘い香りを感じた。視線を遠くにやると、この静かな通りは桜色の帯に溶け込み、まるで東京と桜の物語りを生き生きと描いた1本の美しい絵巻物のように見えた。桜の花びらがそよ風に舞い、ひらひらと肩の上に落ちてきた。それはまるで、見るものを空想の世界に誘う踊る妖精のようだった。

初めての東京。見た物や感じた物が少しずつ私の心に流れ込み、新しい東京のイメージを形成してゆく。日本の桜はやはり聞きしに優る見事さであった。それはふとした瞬間にのみ現れる繊細な美しさであり、これこそが東京、これこそが日本なのだと思うにはいられなかった。

(2008年度FASID/GRIPS共同協力プロジェクト「国際開発」課程研修員 庄岩)



独立行政法人 国際協力機構
中華人民共和国事務所

北京市朝陽区東三環北路5号 北京發展大廈400室 郵便番号:100004
TEL: +86-10-6590-9250 FAX: +86-10-6590-9260

☆【お知らせ】 ☆

1. 林業分野の日中 NGO 会議開催！

日中林業生態研修センタープロジェクトでは、来たる4月25日(金)に中国で造林活動を行っている日中 NGO との会議を国家林業局管理幹部学院で開催します。

2. 6月26日-27日、北京にて『第2回日中 NGO シンポジウム-「障害者支援」をめぐって』を JICA 中国事務所と中国国際民間組織合作促進会(CANGO)の共催により開催する予定です。同シンポジウムは障害者支援分野の日中 NGO を北京に一堂に集め、関係者同士間の情報交換、ネットワーク強化、経験交流等を目的としています。(相互理解班 周妍)

=====
* 皆様からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などいただければ幸いです。いずれも中国事務所沈 曉静 (shenxiaojing.cn@jica.go.jp) までをお願いいたします。

=====
* その他お知らせ

JICA のホームページ: チマイナ ライブラリー (和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>

チマイナ トピックス (和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/topics/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/topics/index.html>